



各 位

平成 30 年 11 月 7 日

会 社 名 日本電子材料株式会社
代 表 者 代表取締役社長 大久保 和正
(コード番号 6855 東証第一部)
問 合 せ 先 常務取締役 管理部門統括部長 足立 安孝
電 話 06(6482)2007

平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成 30 年 5 月 11 日に公表いたしました平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績との差異

平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と実績との差異

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 30 年 5 月 11 日公表)	百万円 6,900	百万円 230	百万円 200	百万円 200	円 銭 18.89
実績 (B)	7,455	684	781	778	73.53
増減額 (B-A)	555	454	581	578	
増減率 (%)	8.1	197.6	291.0	289.3	
(ご参考) 前第 2 四半期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	6,494	△65	△40	△11	△1.09

2. 差異の理由

売上高につきましては、第 1 四半期より好調に推移しました NAND 型フラッシュメモリー向け製品が、当第 2 四半期におきましても引き続き堅調に推移したため、当初の予想を上回る結果となりました。一方、利益面につきましては、第 1 四半期では高付加価値製品のプロダクトミックスにより、大きく利益の獲得が図れたものの、当第 2 四半期におけるそれらの需要は減速傾向となりました。しかしながら、国内メモリー IC 向けへの積極的な拡販に加え、コスト削減の一層の推進により、当初の予想を上回る結果となりました。

3. その他

半導体市場は、中長期的にはデータセンター向け需要の拡大を背景に緩やかな成長を予想する一方で、足元ではメモリー IC の価格下落や半導体メーカーにおける設備投資計画の調整が見受けられ、市場動向の変化が激しい状況で推移しております。平成 31 年 3 月期通期業績予想につきましては、平成 30 年 5 月 11 日に公表いたしました業績予想を変更しておりませんが、今後、業績予想の修正が必要になった場合には速やかに開示いたします。

配当につきましては、年間 1 株当たり 10 円 (第 2 四半期末 5 円、期末 5 円) の予定に変更はありません。

以 上